

第5章

仕事・生活変数からみた野宿生活

5.1 はじめに

本章では、まず、仕事の有無（「有職」層と「無職」層）で分類することにより、仕事の有無が野宿生活のどこまで影響をあたえているか考察していきたい。そして、「仕事」変数を用いた仕事の面からだけでなく、「生活」変数を用いることにより、野宿生活者を大別し、健康面、経歴面（釜ヶ崎経験、建設業経験、野宿期間等）、生活面（食事、嗜好品、日用生活品等）といった野宿生活全般にわたる項目においてそれぞれの層にはどのような傾向を見ることができるのかを順に提示していきたい。

5.2 仕事変数による分析

5.2.1 仕事変数と釜ヶ崎変数

「仕事」変数とその他の変数について「仕事」変数と釜変数、釜ヶ崎・建設変数との関係を明確にしておく（表 5.1、5.2）。分析すると、「非釜ヶ崎」層には「有職」層の割合（35.1%）より「無職」層の割合（65.1%）が著しく高い。さらに詳しく、釜ヶ崎・建設変数との関係をみると、「釜ヶ崎往還」層は、「有職」層での割合（30.7%）が「無職」層の割合（18.9%）より大きい。「釜ヶ崎離脱」層については、「有職」層の割合（34.0%）より「無職」層の割合（15.0%）が高い。「非釜ヶ崎・建設」層については「無職」層の割合（34.6%）が「有職」層の割合（21.6%）より高い。「非釜ヶ崎・非建設」層については「無職」層での割合（31.5%）が「有職」層の割合（13.7%）より高い。以上より、「有職」層は「釜ヶ崎」層の割合が高く、「無職」層は「非釜ヶ崎」層の割合が高い。仕事をしているかどうかで「仕事」変数を作ったが、この変数は「釜ヶ崎」か「非釜ヶ崎」と同義であるということが分かった。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
「釜ヶ崎往還」層	164 30.9 %	25 19.4 %	189 28.7 %
「釜ヶ崎離脱」層	180 34.0 %	20 15.5 %	200 30.3 %
「非釜ヶ崎」層	186 35.1 %	84 65.1 %	270 41.0 %
列合計 比率	530 80.4 %	129 19.6 %	659 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq	
Likelihood Ratio	39.186	<.0001	
Pearson	39.308	<.0001	

表 5.1: 「仕事」変数と釜変数

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
「釜ヶ崎往還」層	162 30.7 %	24 18.9 %	186 28.4 %
「釜ヶ崎離脱」層	179 34.0 %	19 15.0 %	198 30.3 %
「非釜ヶ崎 ・建設」層	114 21.6 %	44 34.6 %	158 24.2 %
「非釜ヶ崎 ・非建設」層	72 13.7 %	40 31.5 %	112 17.1 %
列合計 比率	527 80.6 %	127 19.4 %	654 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 42.709 <.0001
Pearson 43.436 <.0001

表 5.2: 「仕事」変数と釜ヶ崎・建設変数

5.2.2 仕事変数と年齢

年齢と仕事クロス表をみると(表 5.3)、「55 歳以上 65 歳未満」では「有職」層 (45.6 %) での割合が「無職」層の割合 (36.6 %) に比べて高い。「65 歳以上」では、「無職」層の割合 (20.6 %) が「有職」層の割合 (10.7 %) より高い。これより、「無職」層は「有職」層より高齢者の割合が高いと考えられる。さらに「有職」層、「無職」層について求職活動をしているかどうかみていくことにより、各層にどのような年齢層が混在しているかみると(表 5.4)、各層、「求職活動あり」層は、「求職活動なし」層と比較して年齢が若干低いことがわかる。また、「65 歳以上」では「無職・求職活動なし」層で割合が著しく高くなっている。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
45 歳未満	47 8.8 %	8 6.1 %	55 8.3 %
45 歳以上	186 34.9 %	48 36.6 %	234 35.2 %
55 歳未満	243 45.6 %	48 36.6 %	291 43.8 %
55 歳以上	57 10.7 %	27 20.6 %	84 12.7 %
列合計 比率	533 80.3 %	131 19.7 %	664 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 10.309 0.0161
Pearson 11.12 0.0111

表 5.3: 年齢と「仕事」変数

度数 列%	「有職・ 求職活動あり」層	「有職・ 求職活動なし」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
45 歳未満	27 10.6 %	20 7.2 %	4 7.5 %	4 5.3 %	55 8.3 %
45 歳以上	103 40.6 %	83 29.9 %	18 34.0 %	28 37.3 %	232 35.2 %
55 歳未満	109 42.9 %	133 47.8 %	25 47.2 %	22 29.3 %	289 43.8 %
55 歳以上	15 5.9 %	42 15.1 %	6 11.3 %	21 28.0 %	84 12.7 %
列合計 比率	254 38.5 %	278 42.1 %	53 8.0 %	75 11.4 %	660 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 35.692 <.0001
Pearson 36.495 <.0001

表 5.4: 年齢と仕事・求職活層の有無

5.2.3 健康状態と仕事変数

年齢と「仕事」変数には関係があるということがわかった。では、年齢と関係すると思われる健康状態について「仕事」変数との関係性をみると（表 5.5）、「仕事」変数と健康状態で関係性はみられなかった。つまり、健康状態がどのような状態でも、仕事をせざるを得ない状況にあるということが出来る。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
具合が悪くない	357 67.1 %	82 61.2 %	439 65.9 %
具合が悪い	175 32.9 %	52 38.8 %	227 34.1 %
列合計 比率	532 79.9 %	134 20.1 %	666 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq	
Likelihood Ratio	1.64	0.2003	
Pearson	1.665	0.197	

表 5.5: 健康状態と「仕事」変数

5.2.4 野宿期間と仕事変数

次に、野宿期間と仕事変数についてみていく（表 5.6、5.7）。全野宿期間 8 ヶ月未満では、「無職」層が 38.9 %であるのに対し「有職」層は 20.0 %と少ない。なぜ、「8 ヶ月未満」で「無職」層は「有職」層と比べて、割合が大きいかと考えたところ、以下の原因が考えられる。それは求職活動中（仕事まち）層がいるため、言い換えるなら、野宿期間が 8 ヶ月以上になると求職活動意欲が減退し、生きていくための手段として「廃品回収」に従事してしまうためと推測される。そこで、野宿期間と仕事・求職活動の関係性をみると、「8 ヶ月未満」層では「無職・求職活動あり」層の割合が非常に高い。よって、「無職」層、には「仕事待ち」層が含まれているということが分かった。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
8 ヶ月未満	106 20.0 %	49 38.9 %	155 23.6 %
8 ヶ月以上	196 36.9 %	32 25.4 %	228 34.7 %
1 年 8 ヶ月未満	128 24.1 %	21 16.7 %	149 22.7 %
1 年 8 ヶ月以上	101 19.0 %	24 19.0 %	125 19.0 %
3 年 8 ヶ月未満	531 80.8 %	126 19.2 %	657 100.0 %
3 年 8 ヶ月以上			
列合計 比率	531 80.8 %	126 19.2 %	657 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq	
Likelihood Ratio	20.445	0.0001	
Pearson	21.838	<.0001	

表 5.6: 野宿期間と「仕事」変数

度数 列%	「有職・ 求職活動あり」層	「有職・ 求職活動なし」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
8ヶ月未満	65 25.8%	41 14.7%	25 50.0%	23 31.5%	154 23.6%
8ヶ月以上 1年8ヶ月未満	106 42.1%	90 32.4%	15 30.0%	16 21.9%	227 34.8%
1年8ヶ月以上 3年8ヶ月未満	56 22.2%	72 25.9%	7 14.0%	13 17.8%	148 22.7%
3年8ヶ月以上	25 9.9%	75 27.0%	3 6.0%	21 28.8%	124 19.0%
列合計 比率	252 38.6%	278 42.6%	50 7.7%	73 11.2%	653 100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 67.206 <.0001
Pearson 66.67 <.0001

表 5.7: 野宿期間と仕事・求職活動

5.2.5 居住形態と仕事変数

テントで暮らしているかどうかは、仕事の有無と大いに関係している（表 5.8）。「無職」層では、「テント」層の割合は 56.7%と少なく「有職」層では、「テント」層の割合は 84.7%にも上る。ではなぜ、「有職」層に「テント」層が多いのであろうか。一つの原因として、「有職」層は「無職」層と比べて長期野宿が多いことから、テント生活を始めるのは、野宿生活が長期にわたらざるを得ないことへの「覚悟」を持つに至ったからだと考えられる。また、もう一つの原因としては、テント生活を始めてから廃品回収をするのか、廃品回収をするためにテントを張るかはさだかではないが、「有職」層の「仕事」が廃品回収であることを考えれば「テント」層が多くても当然の結果であると思われる。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
テント	455 84.7%	76 56.7%	531 79.1%
非テント	82 15.3%	58 43.3%	140 20.9%
列合計 比率	537 80.0%	134 20.0%	671 100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 44.983 <.0001
Pearson 50.97 <.0001

表 5.8: テント生活と「仕事」変数

5.2.6 食事と仕事変数

次に、生活実態の中の食事についてみていく(表 5.9)。

「自炊」について見ると、「有職」層は「無職」層と比べてかなり多い。この理由としては3つあげることができると思う。「自炊」するにはそれなりの自炊できる環境が必要であると考えられる。そして、「自炊」するのに必要な道具の調達には廃品回収の仕事をしているかどうかで確保の機会が大きく異なるし、食料の調達にはわずかでも現金収入があることが有利であるなどの理由が考えられる。また、コンビニなどの「廃棄弁当」の利用(廃棄食品)も「無職」層で多くなっている。以上より、「無職」層はあまり自炊をせず、廃棄食品を利用して食事を維持しているという厳しい野宿生活の一面がうかがえる。

度数 行% 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
炊き出し	42 72.4 % 7.8 %	16 27.6 % 12.2 %	58 100.0 % 8.7 %
自炊	352 88.4 % 65.5 %	46 11.6 % 35.1 %	398 100.0 % 59.6 %
食堂・弁当	160 83.3 % 29.8 %	32 16.7 % 24.4 %	192 100.0 % 28.7 %
廃棄食品	162 76.4 % 30.2 %	50 23.6 % 38.2 %	212 100.0 % 31.7 %
残飯	39 73.6 % 7.3 %	14 26.4 % 10.7 %	53 100.0 % 7.9 %
仲間から	96 76.2 % 17.9 %	30 23.8 % 22.9 %	126 100.0 % 18.9 %
その他	53 70.7 % 9.9 %	22 29.3 % 16.8 %	75 100.0 % 11.2 %
列合計 比率	537 80.4 %	131 19.6 %	668 100.0 %

表 5.9: 食事と仕事

5.2.7 野宿者間のつきあいと仕事変数

野宿者間の仲間とのつきあいは、つきあい「あり」と回答している割合について見ると、「有職」層の方(81.3%)が「無職」層(73.9%)より高い(表 5.10)。なぜ「有職」層に多いかと考えると、「有職」層は「無職」層と比べて定位置で生活しているテント生活者が多いため、また、「有職」層の大多数が従事している仕事が「廃品回収」ということを考えると共同で回収品を集めて生活していく関係が成り立っている可能性もある。そこで、(表 5.11)を見ると、「仕事上」のつきあいがあると回答している者の割合が「有職」層で高い。よって、「有職」層と「無職」層での野宿者間の付き合いの差異は、仕事を介しての付き合いがあるかどうかの差異であると言える。

度数 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
つきあい あり	435 81.3 %	99 73.9 %	534 79.8 %
つきあい なし	100 18.7 %	35 26.1 %	135 20.2 %
列合計 比率	535 80.0 %	134 20.0 %	669 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 3.499 0.0614
Pearson 3.671 0.0554

表 5.10: 野宿者間のつきあいと仕事変数

度数 行% 列%	「有職」層	「無職」層	行合計 比率
仕事上	99 97.1 % 23.0 %	3 2.9 % 3.0 %	102 100.0 % 19.3 %
生活上	254 80.9 % 59.1 %	60 19.1 % 60.6 %	314 100.0 % 59.4 %
余暇・娯楽	200 82.6 % 46.5 %	42 17.4 % 42.4 %	242 100.0 % 45.7 %
あいさつ程度	59 81.9 % 13.7 %	13 18.1 % 13.1 %	72 100.0 % 13.6 %
その他	46 85.2 % 10.7 %	8 14.8 % 8.1 %	54 100.0 % 10.2 %
列合計 比率	430 81.3 %	99 18.7 %	529 100.0 %

表 5.11: 野宿者間のつきあいの内容と仕事変数

5.3 生活変数による分析

5.3.1 年齢と生活変数

先の節では仕事変数を用いて野宿生活についてみてきたが、仕事の面からだけでは不十分なので、以下生活変数を用いてさらに詳しく見ていくことにする。

年齢と生活変数のクロス表をみると（表 5.12）、「45 歳未満」、「45 歳以上 55 歳未満」では生活変数のどの層にも大差はないが、「55 歳以上 65 歳未満」では、「無職・求職活動なし」層の割合が低く、「65 歳以上」では「廃品回収以外従事」層が低く、「無職・求職活動なし」層で高い。

次に「廃品回収」だけで比較すると、「45 歳以上 55 歳未満」の割合は「月収 3 万円以上」層が「月収 3 万円未満」層より高い。逆に、「55 歳以上 65 歳未満」の「月収 3 万円未満」層が「月収 3 万円以上」層より高い。これは「廃品回収」での収入は、身体（体力）に依存する部分が大きいためと考える。収入を増やすためにはアルミ缶をたくさん回収しなければならないが、たくさん回収するためには体力を必要とする。また、単価の高い粗大ごみを回収しようと思えば、それだけ重い物を運ぶだけの体力を必要とする。つまり、廃品回収の収入は体力＝年齢に依存しているといえる。

次に「無職」層だけで比較すると、65 歳未満の割合が高いのは「求職活動あり」で、65 歳以上の割合が高いのは「求職活動なし」となっている。つまり 65 歳を境界とし求職活動意欲の減退をみることができる。なぜ 65 歳をさかいとするかは、65 歳になれば福祉を受けることができると釜ヶ崎では一般的に言われているため、また 65 歳が仕事をする体力の限界であることなど考えられるが推測に過ぎない。

以上、年齢と生活変数の関係をまとめると、「廃品回収」層内では「月収 3 万円未満」層に高齢の割合が高く、「無職」層では「求職活動なし」層の方が高齢の割合が高くなる、つまり、年齢が高齢化するにつれ、体力が衰え収入が減少し求職活動意欲が低下していく傾向にあるといえる。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
45歳未満	17 7.0%	13 8.0%	6 8.7%	4 7.5%	4 5.3%	44 7.3%
45歳以上 55歳未満	74 30.5%	63 38.9%	25 36.2%	18 34.0%	28 37.3%	208 34.6%
55歳以上 65歳未満	116 47.7%	72 44.4%	35 50.7%	25 47.2%	22 29.3%	270 44.9%
65歳未満	36 14.8%	14 8.6%	3 4.3%	6 11.3%	21 28.0%	80 13.3%
列合計 比率	243 40.4%	162 26.9%	69 11.5%	53 8.8%	75 12.5%	602 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	27.127	0.0074				
Pearson	27.681	0.0062				

表 5.12: 年齢と「生活」変数

5.3.2 健康、病気・けがと生活変数

次に年齢、体力と関係すると思われる、健康状態、病気・ケガについてみていくことにする。

生活変数と健康状態のクロス表をみると（表 5.13、5.14）、健康状態が「悪い」と回答した割合が「無職・求職活動なし」層で若干ではあるが高くなっているが、他の層では大差はみられない。なぜ「無職・求職活動なし」層で、健康状態「悪い」と回答している割合が高くなったか考えると、先述した年齢、つまり 65 歳以上の人が多いためと考えられる。

以上をまとめると、健康状態、病気・ケガと生活変数は関係があるとはいえない。

年齢と生活変数との関係で「廃品回収」層の中では「月収3万円未満」層で高齢の割合が高く、「無職」層の中では「求職活動なし」層で高齢の割合が高いと述べたが、健康状態、病気・ケガでは大差はなかった。つまり、年齢には関係なく、ある一定程度の健康状態でないと野宿することはできないといえることができる。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
悪くない	160 66.1%	119 73.0%	46 66.7%	38 71.7%	44 57.1%	407 67.4%
悪い	82 33.9%	44 27.0%	23 33.3%	15 28.3%	33 42.9%	197 32.6%
列合計 比率	242 40.1%	163 27.0%	69 11.4%	53 8.8%	77 12.7%	604 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	6.591	0.1591				
Pearson	6.661	0.1549				

表 5.13: 健康と「生活」変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	130 53.5%	70 42.9%	33 47.8%	23 43.4%	39 50.6%	295 48.8%
なし	113 46.5%	93 57.1%	36 52.2%	30 56.6%	38 49.4%	310 51.2%
列合計 比率	243 40.2%	163 26.9%	69 11.4%	53 8.8%	77 12.7%	605 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	5.145	0.2727				
Pearson	5.134	0.2738				

表 5.14: 病気・けがと「生活」変数

5.3.3 仕事意欲と生活変数

次に、体力と健康状態について各層がどのように自覚しているか、主観的に判断しているかについて、求職活動なし理由と生活変数の関係、希望の仕事内容と生活変数の関係からみていく。

求職活動なしの理由と生活変数のクロス表をみると（表 5.15）、健康状態、病気・ケガと関係する「疾病・障害」について割合をみると「無職・求職活動なし」層で高く、「廃品回収・月収3万円以上」層、「廃品回収以外従事」層で低い。年齢と関係する「年齢による体力低下」について割合をみると、「廃品回収・月収3万円未満」層で高く、「廃品回収以外従事」層では低い。「手配師」についてみても各層で大差はない。「仕事減少」についてみると、「廃品回収・月収3万円以上」層で高く、「廃品回収以外従事」層で低い。

以上より、求職活動なしの理由として年齢、体力に関係する選択肢を選んでいる割合が高いのは、「廃品回収・月収3万円未満」層と「無職・求職活動なし」層で、年齢、体力に関係しない選択肢（仕事減少・その他）を選んでいる割合が高いのは、「廃品回収・月収3万円以上」層と「廃品回収以外従事」層であるということが出来る。つまり年齢と生活変数で「廃品回収」層の中で高齢層である「廃品回収・月収3万円未満」層と「無職」層で高齢層の「無職・求職活動なし」層で、年齢、体力に関係する選択肢を選んでいる割合が高いということも出来る。これは、生活変数が年齢と強い関係があるため、年齢変数と関係性のある求職活動なし理由と生活変数にも関係がある結果になったと思われる。

また、希望の仕事内容と生活変数のクロス表をみると（表 5.16）、希望の仕事として「軽作業」と回答している割合が「廃品回収・月収3万円未満」層で高く、「無職・求職活動あり」層で低い。希望の仕事として「軽作業」と選ぶ理由として、体力低下を自覚しているためと考えられる。確かに年齢変数と転職希望職種（表 2.19）からも分かるように体力低下を感じるのは高齢である。その結果「廃品回収」層で高齢層の「廃品回収・月収3万円未満」層で「軽作業」の割合が高かったと推測される。また、「無職・求職活動あり」層で「軽作業」の割合が低かったのは、「無職」層でも「無職・求職活動あり」は若年者層であったためと思われる。

以上、生活変数と年齢、年齢に関係すると思われる変数（健康状態、病気・ケガ、求職活動なし理由、希望の仕事内容）を見てきて、生活変数と年齢には強い関係性があることはわかった。一方、健康状態、病気・ケガなど、個人の意識を判断するような抽象的な質問項目に関しては、各層で差異はみられなかったが、求職活動なし理由、希望の仕事など、具体的な内容をきく質問項目に関しては、各層で差異が見られるという結果になった。

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
疾病・障害	15 45.5 % 11.2 %	5 15.2 % 5.7 %	1 3.0 % 4.3 %	12 36.4 % 15.8 %	33 100.0 % 10.3 %
年齢	34 54.8 % 25.4 %	14 22.6 % 16.1 %	2 3.2 % 8.7 %	12 19.4 % 15.8 %	62 100.0 % 19.4 %
手配師	5 41.7 % 3.7 %	2 16.7 % 2.3 %	1 8.3 % 4.3 %	4 33.3 % 5.3 %	12 100.0 % 3.8 %
仕事減少	55 42.6 % 41.0 %	44 34.1 % 50.6 %	5 3.9 % 21.7 %	25 19.4 % 32.9 %	129 100.0 % 40.3 %
列合計 比率	134 41.9 %	87 27.2 %	23 7.2 %	76 23.8 %	320 100.0 %

表 5.15: 求職活動をできない理由と生活変数

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	行合計 比率
なんでもよい	92 48.9 % 44.4 %	52 27.7 % 37.4 %	22 11.7 % 41.5 %	22 11.7 % 43.1 %	188 100.0 % 41.8 %
技術・技能	52 40.6 % 25.1 %	53 41.4 % 38.1 %	8 6.3 % 15.1 %	15 11.7 % 29.4 %	128 100.0 % 28.4 %
軽作業	42 64.6 % 20.3 %	13 20.0 % 9.4 %	7 10.8 % 13.2 %	3 4.6 % 5.9 %	65 100.0 % 14.4 %
安定した仕事	13 34.2 % 6.3 %	14 36.8 % 10.1 %	6 15.8 % 11.3 %	5 13.2 % 9.8 %	38 100.0 % 8.4 %
高賃金	2 40.0 % 1.0 %	1 20.0 % 0.7 %	1 20.0 % 1.9 %	1 20.0 % 2.0 %	5 100.0 % 1.1 %
その他	21 38.9 % 10.1 %	16 29.6 % 11.5 %	10 18.5 % 18.9 %	7 13.0 % 13.7 %	54 100.0 % 12.0 %
列合計 比率	207 46.0 %	139 30.9 %	53 11.8 %	51 11.3 %	450 100.0 %

表 5.16: 希望の仕事内容と生活変数

5.3.4 行政施策と生活変数

自立支援センター希望の有無と生活変数のクロス表をみると（表 5.17）、「無職・求職活動なし」層で「あり」と回答している割合が他の層と比べて著しく低い。これは、自立支援センターが仕事を中心とした施設であることを考えれば、求職意欲が減退している層である「無職・求職活動なし」層の「あり」と回答している割合が低いことも理解できる。また、生活ケアセンター希望の有無と生活変数のクロス表をみると（表 5.18）、「廃品回収以外従事」層と「無職・求職活動なし」層で「あり」と回答している割合が低い。これは、生活ケアセンターが身体を休める施設であることを考えれば、65歳以上の高齢者層が少ない「廃品回収以外従事」層が「あり」と回答している割合が低いことも理解できる。しかし、「無職・求職活動なし」層では高齢者層が多いにもかかわらず、「あり」の回答が低い。この理由として、施設を好まない、もしくは行政に対する不信感が高いなど、いくつかの可能性を考えることはできる。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	136 56.7 %	84 53.2 %	33 49.3 %	31 59.6 %	26 34.7 %	310 52.4 %
なし	104 43.3 %	74 46.8 %	34 50.7 %	21 40.4 %	49 65.3 %	282 47.6 %
列合計 比率	240 40.5 %	158 26.7 %	67 11.3 %	52 8.8 %	75 12.7 %	592 100.0 %

Test	ChiSquare	Prob > ChiSq
Likelihood Ratio	12.706	0.0128
Pearson	12.595	0.0134

表 5.17: 自立支援センター希望と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	107 44.0%	61 38.1%	19 27.5%	25 48.1%	23 30.7%	235 39.2%
なし	136 56.0%	99 61.9%	50 72.5%	27 51.9%	52 69.3%	364 60.8%
列合計 比率	243 40.6%	160 26.7%	69 11.5%	52 8.7%	75 12.5%	599 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	10.607	0.0314				
Pearson	10.405	0.0341				

表 5.18: 生活ケアセンター希望の有無と生活変数

5.3.5 要望と生活変数

そこで、生活変数と行政への要望の有無の関係をみていく。

行政への要望の有無と生活変数のクロス表をみると（表 5.19）、「無職・求職活動なし」層は他の層と比べて、行政への要望「あり」と回答している割合が著しく低い。

以上、行政による支援策である、自立支援センター希望の有無、生活ケアセンター希望の有無、また行政への要望の有無についてみてきたが、すべてにおいて「あり」と回答している割合が「無職・求職活動なし」層では低い。

では、「無職・求職活動なし」層とは、要望の少ない層なのであろうか。以下、現在の生活への不満の有無と今後の生活への不安について「無職・求職活動なし」層を中心に関係性をみていく。

現在の生活の不満の有無と生活変数の関係をみると（表 5.20）、現在の生活不満「あり」と回答している割合は各層で大差はなかった。今後の生活の不安の有無と生活変数の関係をみると（表 5.21）、今後の生活の不安「あり」と回答している割合は、「廃品回収以外従事」層、「無職・求職活動なし」層で若干少ないものの、各層で大差はみられなかった。

以上まとめると、現在の生活の不満の有無、今後の生活の不安の有無では、各層で大差は見られなかった、つまり要望について言えば各層で大差がないにもかかわらず、行政による支援策を切望していない層、「無職・求職活動なし」層の存在が分かった。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	199 81.2%	125 76.2%	54 78.3%	47 88.7%	50 64.9%	475 78.1%
なし・無回答	46 18.8%	39 23.8%	15 21.7%	6 11.3%	27 35.1%	133 21.9%
列合計 比率	245 40.3%	164 27.0%	69 11.3%	53 8.7%	77 12.7%	608 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	12.765	0.0125				
Pearson	13.02	0.0112				

表 5.19: 行政への要望の有無と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	73 29.8%	49 29.9%	21 30.4%	13 24.5%	23 29.9%	179 29.4%
なし・無回答	172 70.2%	115 70.1%	48 69.6%	40 75.5%	54 70.1%	429 70.6%
列合計 比率	245 40.3%	164 27.0%	69 11.3%	53 8.7%	77 12.7%	608 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	0.707	0.9504				
Pearson	0.685	0.9531				

表 5.20: 現在の生活の不満と生活変数

ではなぜこのような層が生じたのだろうか。生活変数とその経歴（釜ヶ崎経験と野宿経験）、生活変数と現在の生活の関係をみていくことによって、各層の特徴を確かめていきたいと思う。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	122 49.8%	88 53.7%	28 40.6%	28 52.8%	32 41.6%	298 49.0%
なし・無回答	123 50.2%	76 46.3%	41 59.4%	25 47.2%	45 58.4%	310 51.0%
列合計 比率	245 40.3%	164 27.0%	69 11.3%	53 8.7%	77 12.7%	608 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	5.485	0.241				
Pearson	5.461	0.2432				

表 5.21: 今後の生活の不安の有無と生活変数

5.3.6 釜ヶ崎・建設業従事と生活変数

野宿に至るまでの職歴キャリアと、野宿（生活）の有り様との間には明確な差異が見られる。

「釜ヶ崎往還」層である割合は、「廃品回収以外従事」層で際立って高く、「無職・求職活動なし」層で際立って低い（表 5.22）。「釜ヶ崎離脱」層である割合は、「廃品回収・月収3万円未満」層、「廃品回収・月収3万円以上」層で際立って高く、「無職・求職活動なし」層で低い。「非釜ヶ崎・建設」層である割合は、「無職・求職活動なし」層で際立って高く、「廃品回収・月収3万円未満」層、「廃品回収・月収3万円以上」層、「廃品回収以外従事」層で低い。「非釜ヶ崎・非建設」層である割合は、「無職・求職活動なし」層で際立って高く、「廃品回収・月収3万円未満」層、「廃品回収・月収3万円以上」層、「廃品以外従事」層で低い。

これらから次のように言えそうである。現在、野宿をしながら何らかの収入を得るための仕事を持っている層は、これまでに釜ヶ崎での就労を経験したことがある場合が多い。仕事の内容で言えば、廃品回収以外の就労に従事している「廃品回収以外従事」層は、釜ヶ崎経験層の中でも特に、今後釜ヶ崎に日雇労働者として帰還することを想定している層（「釜ヶ崎往還」層）で高い。廃品回収に従事しているのは、釜ヶ崎経験層の中でも特に、釜ヶ崎での就労経験はあるが今後釜ヶ崎に日雇労働者として帰還することを想定していない層（「釜ヶ崎離脱」層）で多い。「廃品回収・月収3万円未満」層／「廃品回収・月収3万円以上」層という廃品回収従事層における収入の違いをみても、そこに過去の職歴キャリアによる違いを見出すことはできない。収入の違いを規定するのは職歴キャリアとは異なる要因であると考えられる。「無職・求職活動あり」層では、過去の職歴キャリアにおける目立った要素は見出せないが、釜ヶ崎を経由していない層がやや多い傾向が見られる。「未就労・未求職」層では、釜ヶ崎を経由していない層が多い。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
「釜ヶ崎往還」層	63 26.3%	50 31.1%	29 42.6%	14 28.0%	10 13.7%	166 28.0%
「釜ヶ崎離脱」層	95 39.6%	55 34.2%	12 17.6%	9 18.0%	9 12.3%	180 30.4%
「非釜・建設」層	53 22.1%	32 19.9%	16 23.5%	15 30.0%	29 39.7%	145 24.5%
「非釜・非建設」層	29 12.1%	24 14.9%	11 16.2%	12 24.0%	25 34.2%	101 17.1%
列合計 比率	240 40.5%	161 27.2%	68 11.5%	50 8.4%	73 12.3%	592 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	59.916	<.0001				
Pearson	60.272	<.0001				

表 5.22: 釜ヶ崎・建設と生活変数

5.3.7 野宿場所（地域）と生活変数

地域変数と生活変数のクロス表をみると（表 5.23）、「浪速・西成」は「廃品回収・月収3万円未満」層と「廃品回収以外従事」層で割合が高く、「無職・求職活動なし」層で割合が低い。「廃品回収以外従事」層において「浪速・西成」の割合が高いのは、「廃品回収以外従事」層というのは、日雇い、特別清掃などの釜ヶ崎に関係の深い職業に従事している者の割合が高いためと考えられる。次に「天王寺公園」は、「廃品回収以外従事」層と「無職・求職活動なし」層の割合が高い。「天王寺方面」は「廃品回収・月収3万円以上」層の割合が高い。「阿倍野方面」は、「無職・求職活動なし」層が一人も存在していなかった。「西部方面」は各層で大差は見られなかった。「長居公園」では「無職・求職活動あり」層の

割合が低い。「南部方面」、「中之島・大川」では各層で大差はみられない。「大阪城公園」では、「無職・求職活動あり」層が若干割合が高い。「扇町公園・北部」では、「廃品回収以外従事」層で若干割合が低い。ここまでは公園を中心に聞き取った地域について見てきたが、それらの層とは異なった、河川敷（「淀川河川敷」）、ターミナル（「あべのルシアス地下連絡通路」）においてはどの層の割合が高いかと見てみると、「淀川河川敷」では「無職」層の割合が高く、「あべのルシアス地下連絡通路」においては、全員が「無職」層と特徴的な結果となった。

以上、地域変数と生活変数の関係をみてきて、地域変数と生活変数には関係があるということが出来る。そしてそのような結果がえられたのは、第Ⅱ部第9章でも述べているが、地域変数と釜変数には強い関係があること、また、釜ヶ崎経験・建設経験と生活変数の関係が密接であることを考えれば当然のことと言っても構わないのではないだろうか。

それに加え、以下でみていく、野宿形態（テント・非テント）と生活変数の関係（第Ⅱ部 5.3.8）、地域変数と野宿形態（テント・非テント）関係（表 5.24）も、地域変数と生活変数の関係に影響しているということが可能である。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
浪速・西成	39 15.9%	17 10.4%	13 18.8%	5 9.4%	4 5.2%	78 12.8%
天王寺公園	11 4.5%	4 2.4%	7 10.1%	6 11.3%	5 6.5%	33 5.4%
天王寺方面	12 4.9%	17 10.4%	3 4.3%	2 3.8%	5 6.5%	39 6.4%
阿倍野方面	10 4.1%	11 6.7%	2 2.9%	4 7.5%	0 0.0%	27 4.4%
西部方面	12 4.9%	7 4.3%	2 2.9%	2 3.8%	3 3.9%	26 4.3%
長居公園	58 23.7%	36 22.0%	10 14.5%	4 7.5%	15 19.5%	123 20.2%
南部方面	4 1.6%	7 4.3%	2 2.9%	1 1.9%	0 0.0%	14 2.3%
大阪城公園	43 17.6%	28 17.1%	15 21.7%	13 24.5%	17 22.1%	116 19.1%
中之島・大川	24 9.8%	16 9.8%	8 11.6%	6 11.3%	10 13.0%	64 10.5%
扇町公園・北部	11 4.5%	8 4.9%	2 2.9%	2 3.8%	4 5.2%	27 4.4%
東部	4 1.6%	4 2.4%	1 1.4%	0 0.0%	2 2.6%	11 1.8%
淀川河川敷	16 6.5%	8 4.9%	4 5.8%	5 9.4%	8 10.4%	41 6.7%
あべのルシアス 地下連絡通路	1 0.4%	1 0.6%	0 0.0%	3 5.7%	4 5.2%	9 1.5%
列合計 比率	245 40.3%	164 27.0%	69 11.3%	53 8.7%	77 12.7%	608 100.0%

Test	ChiSquare	Prob > ChiSq
Likelihood Ratio	71.506	0.0155
Pearson	68.939	0.0254

表 5.23: 地域変数と生活変数

度数 列%	テント	非テント	行合計 比率
浪速・西成	76 14.3 %	6 4.3 %	82 12.2 %
天王寺公園	18 3.4 %	21 15.0 %	39 5.8 %
天王寺方面	25 4.7 %	19 13.6 %	44 6.5 %
阿倍野方面	27 5.1 %	1 0.7 %	28 4.2 %
西部方面	15 2.8 %	14 10.0 %	29 4.3 %
長居公園	124 23.3 %	13 9.3 %	137 20.4 %
南部方面	11 2.1 %	3 2.1 %	14 2.1 %
大阪城公園	119 22.4 %	11 7.9 %	130 19.3 %
中之島・大川	46 8.6 %	27 19.3 %	73 10.9 %
扇町公園・北部	26 4.9 %	6 4.3 %	32 4.8 %
東部	11 2.1 %	2 1.4 %	13 1.9 %
淀川河川敷	34 6.4 %	8 5.7 %	42 6.3 %
アベノルシアス 地下連絡通路	0 0.0 %	9 6.4 %	9 1.3 %
列合計 比率	532 79.2 %	140 20.8 %	672 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 127.019 <.0001
Pearson 135.384 <.0001

表 5.24: 参考表：地域変数と野宿形態

5.3.8 野宿形態と生活変数

野宿形態（テント・非テント）と生活変数の関係をみると（表 5.25）、「非テント」層の割合が「無職」層で高い。「廃品回収」層の中で「テント」の割合をみると、「月収3万円以上」層で高い。これは、廃品回収に収入の大半を依存している「廃品回収」層において、テントを張ることでしっかりした生活基盤を作り上げている「テント」層の方が、収入が多いということを示している。「無職」層の中で「テント」層の割合をみると、「求職活動あり」層、「求職活動なし」層で差はなかった。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
テント	205 83.7 %	148 90.2 %	54 78.3 %	29 54.7 %	43 55.8 %	479 78.8 %
非テント	40 16.3 %	16 9.8 %	15 21.7 %	24 45.3 %	34 44.2 %	129 21.2 %
列合計 比率	245 40.3 %	164 27.0 %	69 11.3 %	53 8.7 %	77 12.7 %	608 100.0 %

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 54.575 <.0001
Pearson 59.007 <.0001

表 5.25: 野宿形態と生活変数

5.3.9 野宿期間と生活変数

次に野宿期間と生活変数の関係についてみていく。

野宿期間と生活変数との関係を見ると（表 5.26、表 5.27）、野宿期間が「8ヶ月未満」の割合が、「無職・求職活動あり」層で高い。その中でも、野宿期間（8ヶ月未満）と生活変数のクロス表を見ると、「4ヶ月未満まで」と回答している割合が高い。これより、無職になって4ヶ月程度は求職意欲が続くといえるかもしれない。次に、野宿期間が「8ヶ月以上1年8ヶ月未満」の割合が高いのは「廃品回収・月収3万円以上」層である。これは、廃品回収で3万円以上の収入を得るためには、廃品回収のノウハウを習得するためには一定以上の野宿期間が必要であるが、ある程度の体力を温存しておく必要もあると考えたときの野宿期間なのだろうかと推測する。次に、野宿期間が「1年8ヶ月以上3年8ヶ月未満」層の割合は「有職」層で高いが、このような傾向がこの期間で高い理由はよく分からない。最後に、野宿期間が「3年8ヶ月以上」の割合が高いのは「無職・求職活動なし」層である。これは「無職・求職活動なし」層というのは、他の層に比べて高齢者の割合が高いため、無職になり野宿している期間が長くなっているということ、そして野宿を長期行っているため求職活動への意欲が減退してきていることを示しているのではないかと推測される。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
8ヶ月未満	49 20.1%	23 14.1%	23 33.8%	25 50.0%	23 31.5%	143 23.9%
8ヶ月以上 1年8ヶ月未満	83 34.0%	73 44.8%	15 22.1%	15 30.0%	16 21.9%	202 33.8%
1年8ヶ月以上 3年8ヶ月未満	63 25.8%	39 23.9%	19 27.9%	7 14.0%	13 17.8%	141 23.6%
3年8ヶ月以上	49 20.1%	28 17.2%	11 16.2%	3 6.0%	21 28.8%	112 18.7%
列合計	244	163	68	50	73	598
比率	40.8%	27.3%	11.4%	8.4%	12.2%	100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 50.695 <.0001
Pearson 51.688 <.0001

表 5.26: 野宿期間と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
2ヶ月未満	9 18.4%	3 13.0%	2 8.7%	10 40.0%	4 17.4%	28 19.6%
4ヶ月未満	14 28.6%	4 17.4%	6 26.1%	9 36.0%	10 43.5%	43 30.1%
6ヶ月未満	18 36.7%	8 34.8%	7 30.4%	3 12.0%	6 26.1%	42 29.4%
8ヶ月未満	8 16.3%	8 34.8%	8 34.8%	3 12.0%	3 13.0%	30 21.0%
列合計	49	23	23	25	23	143
比率	34.3%	16.1%	16.1%	17.5%	16.1%	100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 20.03 0.0665
Pearson 20.496 0.0583

表 5.27: 野宿期間(8ヶ月未満)と生活変数

5.3.10 収入と生活変数

次に、収入、野宿生活の実態（収入、食事、嗜好品、日用生活品）について、生活変数との関係を見ていく。

収入と生活変数の関係性をみるために、収入のある層＝有職層を対象とした。そして、「廃品回収」層を、「月収3万円未満」「月収3万円以上」で分類しないで、「廃品回収」層と「廃品回収以外従事」層の二分類で、収入と生活変数の関係を見ていく。

「有職」層について収入の分布を見ると（表 5.28）、収入「1万円以上2万円未満」の割合が「廃品回収以外従事」層で非常に低い。また収入「6万円以上」の割合が「廃品回収以外従事」層で非常に高い。「廃品回収」層は「廃品回収以外従事」層と比較して、収入が4万円未満の割合が高い。これは、「廃品以外従事」層の仕事内容に、廃品回収と比較して1日の労働で高収入をえることができる「日雇」が含まれているためと考えられる。

生活変数作成の時「廃品回収」層を月収で分類していること、「無職」層は収入がないこと、また上で見たように「廃品回収」層、「廃品回収以外従事」層と収入の間に関係性があることなどから、収入と生活変数は関係性が強いということが出来る。では、収入に大きく影響をうけるとされる野宿生活の実態について生活変数との関係をみていく。

度数 列%	「廃品回収」層	「廃品回収以外従事」層	行合計 比率
1万円未満	80 19.6%	8 14.5%	88 19.0%
1万円以上 2万円未満	92 22.5%	2 3.6%	94 20.3%
2万円以上 3万円未満	73 17.8%	7 12.7%	80 17.2%
3万円以上 4万円未満	74 18.1%	7 12.7%	81 17.5%
4万円以上 5万円未満	26 6.4%	5 9.1%	31 6.7%
5万円以上 6万円未満	27 6.6%	7 12.7%	34 7.3%
6万円以上	37 9.0%	19 34.5%	56 12.1%
列合計 比率	409 88.1%	55 11.9%	464 100.0%
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq	
Likelihood Ratio	586.82	<.0001	
Pearson	443.331	<.0001	

表 5.28: 収入と生活変数

5.3.11 食事と生活変数

食事の獲得方法と生活変数の関係を見ると（表 5.29）、「自炊」と回答している割合が「廃品回収」層で高く、「無職」層で低い。これは、野宿形態が「テント」という「自炊」することが可能な環境かどうかによると考えられる。次に「廃棄食品」、「残飯」の割合が「廃品回収・月収3万円未満」層、「無職」層で高い。特に「無職・求職活動なし」層で高い。これは、「廃棄食品」と「残飯」という食事の獲得方法は、収入がない層（「無職」層）、または収入が少ない層（「廃品回収・月収3万円未満」層）にとって、生きるために必要な最低限の食事を確保する手段であるということができる。これは、「廃品回収・月収3万円未満」層、「無職」層では食事を確保するのにも困難な状況であるということができる。

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
炊き出し	20 37.7 % 8.2 %	10 18.9 % 6.1 %	7 13.2 % 10.1 %	7 13.2 % 13.5 %	9 17.0 % 12.0 %	53 100.0 % 8.8 %
自炊	160 44.0 % 65.3 %	122 33.5 % 74.4 %	39 10.7 % 56.5 %	17 4.7 % 32.7 %	26 7.1 % 34.7 %	364 100.0 % 60.2 %
食堂・弁当	60 34.1 % 24.5 %	59 33.5 % 36.0 %	27 15.3 % 39.1 %	15 8.5 % 28.8 %	15 8.5 % 20.0 %	176 100.0 % 29.1 %
廃棄食品	91 49.2 % 37.1 %	31 16.8 % 18.9 %	14 7.6 % 20.3 %	17 9.2 % 32.7 %	32 17.3 % 42.7 %	185 100.0 % 30.6 %
残飯	24 50.0 % 9.8 %	8 16.7 % 4.9 %	2 4.2 % 2.9 %	5 10.4 % 9.6 %	9 18.8 % 12.0 %	48 100.0 % 7.9 %
仲間から	51 46.4 % 20.8 %	20 18.2 % 12.2 %	9 8.2 % 13.0 %	13 11.8 % 25.0 %	17 15.5 % 22.7 %	110 100.0 % 18.2 %
その他	26 35.6 % 10.6 %	17 23.3 % 10.4 %	8 11.0 % 11.6 %	12 16.4 % 23.1 %	10 13.7 % 13.3 %	73 100.0 % 12.1 %
列合計 比率	245 40.5 %	164 27.1 %	69 11.4 %	52 8.6 %	75 12.4 %	605 100.0 %

表 5.29: 食事手段と生活変数

5.3.12 嗜好品と生活変数

「酒を飲む」と回答している割合が「無職」層で、特に「無職・求職活動なし」層で低い（表 5.30）。これは、もともと飲まない人が「無職」層に集まっているというよりは、嗜好品である酒を飲むほど余裕がない野宿生活者が「無職」層で多いということができるのではないだろうか。以下に、酒獲得方法と生活変数の関係を見る。

酒獲得方法をみると（表 5.31）、「買う」と回答している割合が「有職」層で高く、「無職」層で低い。「買う」という行為は収入がなければできない。つまり、この結果は収入があるかどうか、収入を得るための仕事をしているかによると考えられる。

先ほど、飲酒では「有職」層か「無職」層かで差異が見られたが、喫煙については（表 5.32）、「吸う」と回答している割合が「無職・求職活動なし」層で若干低くなっているが、各層で大差はない。

タバコ獲得方法については（表 5.33）、先ほど述べた酒獲得方法と同様の結果がえられた。つまり、「タバコを買う」と回答している割合が「無職」層で低い。

以上嗜好品（酒・タバコ）と生活変数にみてきたが、嗜好品と生活変数の関係は、嗜好品と収入の関係とってよいだろう。

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
飲む	128 62.4%	110 75.9%	36 65.5%	21 51.2%	23 37.7%	318 62.7%
飲まない	66 32.2%	34 23.4%	17 30.9%	19 46.3%	32 52.5%	168 33.1%
飲めない	11 5.4%	1 0.7%	2 3.6%	1 2.4%	6 9.8%	21 4.1%
列合計 比率	205 40.4%	145 28.6%	55 10.8%	41 8.1%	61 12.0%	507 100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 35.211 <.0001
Pearson 34.296 <.0001

表 5.30: 飲酒と生活変数

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
買う	108 41.9% 91.5%	99 38.4% 97.1%	28 10.9% 80.0%	11 4.3% 61.1%	12 4.7% 60.0%	258 88.1%
もらう	17 36.2% 14.4%	7 14.9% 6.9%	10 21.3% 28.6%	7 14.9% 38.9%	6 12.8% 30.0%	47 100.0% 16.0%
捨う	4 36.4% 3.4%	4 36.4% 3.9%	0 0.0% 0.0%	0 0.0% 0.0%	3 27.3% 15.0%	11 100.0% 3.8%
列合計 比率	118 40.3%	102 34.8%	35 11.9%	18 6.1%	20 6.8%	293 100.0%

表 5.31: 酒獲得方法と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
吸う	182 84.3%	134 88.7%	47 82.5%	37 80.4%	48 75.0%	448 83.9%
吸わない	29 13.4%	17 11.3%	9 15.8%	7 15.2%	14 21.9%	76 14.2%
吸えない	5 2.3%	0 0.0%	1 1.8%	2 4.3%	2 3.1%	10 1.9%
列合計 比率	216 40.4%	151 28.3%	57 10.7%	46 8.6%	64 12.0%	534 100.0%

Test ChiSquare Prob > ChiSq
Likelihood Ratio 12.021 0.1503
Pearson 10 0.265

表 5.32: 喫煙と生活変数

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
買う	143 41.4% 84.1%	124 35.9% 96.9%	39 11.3% 84.8%	20 5.8% 57.1%	19 5.5% 42.2%	345 81.4%
もらう	29 42.6% 17.1%	6 8.8% 4.7%	9 13.2% 19.6%	9 13.2% 25.7%	15 22.1% 33.3%	68 100.0% 16.0%
捨う	29 50.0% 17.1%	4 6.9% 3.1%	3 5.2% 6.5%	8 13.8% 22.9%	14 24.1% 31.1%	58 100.0% 13.7%
列合計 比率	170 40.1%	128 30.2%	46 10.8%	35 8.3%	45 10.6%	424 100.0%

表 5.33: タバコ獲得方法と生活変数

5.3.13 日用品と生活変数

日用品調達方法と生活変数の関係を見ると（表 5.34）「買う」と回答している割合が「廃品回収以外従事」層で高い。これは収入のところでも述べたが（5.3.10）、「廃品回収以外従事」層が他の層に比べて収入が高いと思われる。「粗大ごみ」と回答している割合が「廃品回収」層に高い。これは「廃品」を回収する際、日用品も同時に獲得していると考えられる。「その他」と回答している割合が「無職」層で高い。今回、日用品の調達方法「その他」が具体的にどのような内容かわからないが、「無職」層は他の層とは異なった手段で日用品を調達している層が多いとすることができる。これより、日用品調達方法は、収入、仕事内容に大きく依存しているといえる。

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
買う	55	59	32	15	16	177
	31.1 %	33.3 %	18.1 %	8.5 %	9.0 %	100.0 %
	22.5 %	36.6 %	49.2 %	29.4 %	21.6 %	29.7 %
粗大ごみ	206	131	32	25	39	433
	47.6 %	30.3 %	7.4 %	5.8 %	9.0 %	100.0 %
	84.4 %	81.4 %	49.2 %	49.0 %	52.7 %	72.8 %
仲間	28	16	11	8	14	77
	36.4 %	20.8 %	14.3 %	10.4 %	18.2 %	100.0 %
	11.5 %	9.9 %	16.9 %	15.7 %	18.9 %	12.9 %
市民 ボランティア	28	19	5	4	9	65
	43.1 %	29.2 %	7.7 %	6.2 %	13.8 %	100.0 %
	11.5 %	11.8 %	7.7 %	7.8 %	12.2 %	10.9 %
その他	31	17	10	13	19	90
	34.4 %	18.9 %	11.1 %	14.4 %	21.1 %	100.0 %
	12.7 %	10.6 %	15.4 %	25.5 %	25.7 %	15.1 %
列合計	244	161	65	51	74	595
比率	41.0 %	27.1 %	10.9 %	8.6 %	12.4 %	100.0 %

表 5.34: 日用品調達方法と生活変数

以上、食事、嗜好品、日用品の調達方法を見てきたが、収入つまり仕事内容によって生活が大きく左右されているといえるであろう。それ以外にも、仕事内容により生活が決定されていると思われる項目について、いくつかの項目についてみていく。

5.3.14 仕事時間帯と生活変数

仕事時間帯と生活変数の関係を見ると（表 5.35）、「廃品回収」層は「深夜」、「早朝」の割合が高く、「廃品回収以外従事」層については「昼間」の割合が高い。「廃品回収」層の中でみると、「月収3万円未満」層は「夜間から早朝にかけて」就労し、「月収3万円以上」層は「早朝から昼間にかけて」就労しているという傾向がうかがえる。

度数 行% 列%	「廃品回収・ 月収3万円未満」層	「廃品回収・ 月収3万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	行合計 比率
昼間	83	83	32	198
	41.9 %	41.9 %	16.2 %	100.0 %
	39.2 %	54.6 %	68.1 %	48.2 %
夜間	113	65	16	194
	58.2 %	33.5 %	8.2 %	100.0 %
	53.3 %	42.8 %	34.0 %	47.2 %
早朝	160	122	28	310
	51.6 %	39.4 %	9.0 %	100.0 %
	75.5 %	80.3 %	59.6 %	75.4 %
列合計	212	152	47	411
比率	51.6 %	37.0 %	11.4 %	100.0 %

表 5.35: 仕事時間帯と生活変数

5.3.15 人間関係と生活変数

野宿者間のつきあいの有無と、生活変数には関係を見ることができない（表 5.36）。各層とも 8 割前後、野宿者との付き合い「あり」と回答している。

同居人と生活変数の関係を見ると（表 5.37）、「一人」と回答している割合が「無職・求職活動あり」層で高い。

親しい仲間の数と生活変数の関係を見ると（表 5.38）、「無職」層、「廃品回収」層、「廃品回収以外従事」層の順番で親しい仲間の数が多い割合が増えていく。また「廃品回収」層の中では、「月収 3 万円未満」層より「月収 3 万円以上」層の方が、親しい仲間の数の多い割合が高い。また「無職」層の中では、「求職活動なし」層より「求職活動あり」層の方が親しい仲間の数が多い割合が高い。以上より、親しい仲間の数が、つまりネットワーク、情報の獲得可能性と生活変数には関係があるといえることができる。

度数 列%	「廃品回収・ 月収 3 万円未満」層	「廃品回収・ 月収 3 万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
あり	194 79.5 %	137 83.5 %	55 80.9 %	39 73.6 %	56 72.7 %	481 79.4 %
なし	50 20.5 %	27 16.5 %	13 19.1 %	14 26.4 %	21 27.3 %	125 20.6 %
列合計 比率	244 40.3 %	164 27.1 %	68 11.2 %	53 8.7 %	77 12.7 %	606 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	4.889	0.2989				
Pearson	4.995	0.2878				

表 5.36: 野宿者間のつきあいの有無と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収 3 万円未満」層	「廃品回収・ 月収 3 万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
一人	221 90.2 %	142 86.6 %	61 88.4 %	51 96.2 %	66 85.7 %	541 89.0 %
友人・知り合い	19 7.8 %	11 6.7 %	5 7.2 %	1 1.9 %	2 2.6 %	38 6.3 %
妻・親族	5 2.0 %	11 6.7 %	3 4.3 %	1 1.9 %	9 11.7 %	29 4.8 %
列合計 比率	245 40.3 %	164 27.0 %	69 11.3 %	53 8.7 %	77 12.7 %	608 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	18.606	0.0171				
Pearson	18.658	0.0168				

表 5.37: 同居人と生活変数

度数 列%	「廃品回収・ 月収 3 万円未満」層	「廃品回収・ 月収 3 万円以上」層	「廃品回収以外 従事」層	「無職・ 求職活動あり」層	「無職・ 求職活動なし」層	行合計 比率
0 人	14 8.2 %	16 14.0 %	9 18.4 %	6 19.4 %	12 25.0 %	57 13.8 %
1 人から 3 人	95 55.6 %	42 36.8 %	23 46.9 %	17 54.8 %	23 47.9 %	200 48.4 %
4 人から 5 人	41 24.0 %	37 32.5 %	5 10.2 %	5 16.1 %	6 12.5 %	94 22.8 %
6 人以上	21 12.3 %	19 16.7 %	12 24.5 %	3 9.7 %	7 14.6 %	62 15.0 %
列合計 比率	171 41.4 %	114 27.6 %	49 11.9 %	31 7.5 %	48 11.6 %	413 100.0 %
Test	ChiSquare	Prob > ChiSq				
Likelihood Ratio	30.928	0.002				
Pearson	30.563	0.0023				

表 5.38: 親しい仲間の数と生活変数

5.4 まとめ

仕事変数は釜変数と関係が非常に強い。仕事変数で「有職」層は「釜ヶ崎」層である割合が高く、仕事変数で「無職」層は「非釜ヶ崎」層である割合が高い。

生活変数と年齢には関係がある。「廃品回収」層では「月収が少ない」層で、「無職」層では「求職活動していない」層で高齢者の割合が高い。そして、生活変数と年齢変数に関係があるにもかかわらず、健康、病気・けがとは関係性があるとは言えない。これより健康状態に関係なく、過酷な条件で野宿生活をおくっているということがわかる。ただし、健康状態については医師の診断を受けたわけではないので、本人がどのように自覚しているかという主観的なものである。よって、求職活動をしない理由や希望の仕事内容などのように具体的な内容を回答する部分で隠れていた年齢との関係があらわれている。

生活変数と要望には関係がある。現在の生活の不満「あり」、今後の生活の不安「あり」と回答している割合は各層で大差はないにもかかわらず、行政への要望について「あり」と回答している割合は「無職・求職活動なし」層で著しく低い。

生活変数は釜ヶ崎・建設業変数と関係がある。現在どのような職種についているかは、釜ヶ崎で就労の経験があるかどうか、釜ヶ崎で回収業のノウハウを覚えているかによるところが大きい。

生活変数と野宿場所には関係がある。これは生活変数が釜変数と関係があり、釜変数は野宿場所に関係があるためと考えられる。野宿場所と生活変数とは疑似関係ということができるのではないだろうか。

生活変数と野宿期間には関係がある。野宿期間が「8ヶ月未満」の割合が高いのは「無職・求職活動あり」層で、この層には釜ヶ崎で仕事まちをしている層が含まれている。

収入と「生活」変数には有意な関係がある。「廃品回収」層が「廃品以外従事」層に比し収入が低い傾向にあるのは、「廃品以外従事」層に、比較的高収入の得られる日雇仕事をしている人が含まれていることが影響している。生活変数作成の時「廃品回収」層を月収で分類していること、「無職」層は収入がないこと、また既述のように「廃品回収」層、「廃品回収以外従事」層と収入の間に関係性があることなどから、収入と生活変数は関係性が強いということが出来る。

仕事時間帯と「生活」変数には関係がある。廃品回収従事の有無においてまず、「廃品回収以外従事」層が昼間働いている傾向がある一方、「月収3万円以上」層では「夜間から早朝」、「月収3万円未満」層は「早朝から昼間」にかけて従事している傾向がある。

人間関係と「生活」変数には関係がある。野宿者間の「つきあい」の有無だけ見ると、差は見られないが、その中で親しい仲間がどれだけいるか、すなわち必要な情報を獲得しうるネットワークの所持状況と「生活」変数とが関係あるといえる。